

人権啓発センター だより

平成26年12月
No.12

(公財) 高知県人権啓発センター



『家庭菜園』

ささやかな家庭菜園を作っている。今の時期は、大根、白菜、キャベツが収穫期近くまで育ち、またエンドウ、空豆、たまねぎ、ニンニクなどの芽が越冬に備えている。僅か20坪ほどの畑でも、鍬で耕し、石灰をまき、堆肥を入れて畝を整え、種蒔きや苗の定植をし、消毒や施肥で栽培管理するのは結構大変だが、プロに及ぶべくもない出来の野菜ながら収穫に至るは大きな喜びである。

ところで最近、知人の名前が出てこない等、年齢相応の記憶力の衰えを痛感しており、読書などで頭を使うべく努めているが効果は乏しい。一方で、明日の天気を憂いつつ菜園で鍬をふるって、どの野菜を植えようか、肥料や消毒はどうしようか等々、作業に迷い考えている時にふいにその名前が思い出せたりする。

どうも、読書よりも菜園作業の方が記憶力の衰え防止には良いようです。

(理事長 吉岡)



人権あれこれ

「ヘイトスピーチ」 (憎悪表現)

最近、新聞やインターネットなどでよく「ヘイトスピーチ」という言葉を目にする。「人権尊重」という観点からは正反対にあるこの言葉が気になり、少し調べてみた。ヘイトスピーチは、ヘイト(hate=憎む、憎悪する、嫌う)とスピーチ(speech=演説、発言)をつなげた単語で、「憎悪表現」などと訳されている。具体的には「人種や民族、国籍、性別など特定の属性を有する集団への差別や憎しみをあおるような言動」を言い、時には「〇〇を殺せ」、「〇〇は死ぬ」など身震いするような言葉も平気で使われている。

毎日新聞社が今年8月に47都道府県と

20政令都市に対し、アンケートを実施したところ、約9割がヘイトスピーチを問題だとし、そのうち約4割が何らかの規制が必要だと考えている、と回答している。一方で、「ヘイトスピーチの定義が明確でない」、「憲法に保障された表現の自由との関係もある」との意見もあるが、「規制は必要でない」はゼロであった。

ヘイトスピーチの法的規制については是非は様々な立場の人たちの間で論議されているが、「人間としての尊厳」が人権思想の根底にあると考えれば、このような表現方法は賛同できるものではない。

(研修講師 中西)



じんけんライブラリー

一押し本

「知っていますか？ 一問一答シリーズ」

解放出版社（1,000円～1,200＋税）

「部落問題」から最新の「自殺・自死防止と支援」までシリーズ57冊が出版されています。
人権問題・社会問題などに興味・関心をもっているあなたの疑問や学習に役立つ、
最適の入門書です。

（研修啓発課 山本）



新しく購入した本を紹介します

タイトル	著者／出版社	内容
守ろう！LIFE	全日本ろうあ連盟	災害が発生したとき、聴覚障がい者の命や生活を守るには何をすべきかを解説している。初動対応、安否確認、救援体制の作り方を東日本大震災時の聴覚障がい者救援活動の実例から学ぶ。
いじめのない教室をつくろう 600校の先生と23万人の子どもが教えてくれた解決策	小森 美登里 ／WAVE 出版	先生だから今すぐできる子どもを救う21の方法。「大したことないけど…」は、重要な話をするきっかけ。「大丈夫か？」という質問に、「平気」と答えると何かある。子どもの本音の読み解き方を、一人娘をいじめで失った母親が伝える。
七つの会議	池井戸 潤 ／日本経済新聞出版社	トップセールスマンだったエリート課長・坂戸を“バフハラ”で社内委員会に訴えたのは、歳上の万年係長・八角だった。いったい、坂戸と八角の間に何があったのか。“働くこと”の意味に迫る一冊。
99%ありがとう ALSにも奪えないもの	藤田 正裕 ／ポプラ社	30歳のある日、人生が狂った。突然の診断から3年、左手指と顔しか動かさなくなった広告プランナーが綴る喜怒哀楽の極致、そして希望のメッセージ。



事業報告

ピックアップ

平成26年度人権啓発研修ハートフルセミナー第3講座を開講しました

ハートフルセミナー第3講座は、こうち男女共同参画センター「ソーレ」との共同企画で、小林 美佳さんによる「性犯罪被害にあうということ～身近にある性暴力～」を、9月27日（土）に開講しました。

性犯罪被害当事者である小林さんは、ご自身の被害や家族の反応などの体験をありのままに話し、交流を行っている他の被害者の声も紹介してくれました。

また、性暴力の被害者が、周りの人や社会に求めるものは「理解」であることを教えてくれました。



（企画啓発課 谷脇）

ピックアップ

スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業を開催しました

11月1日（土）高知市総合運動場【補助グラウンド】で、高知ファイティングドッグスと連携・協力して軟式少年野球チームの児童を対象に野球教室を開催しました。

当日は6つのチーム、計80名を超える多くの児童の参加がありました。

グラウンド内では「考えよう相手の気持ち 育てよう思いやりの心」の横断幕や人権のぼり旗を掲出した中で、低学年と高学年に分かれ、キャッチボールやバッティングのアドバイスを受け、その後子どもたちと選手が混合してミニゲームを行いました。

最後には、高知ファイティングドッグスの選手3名が人権のスピーチを行い、仲間を思いやること、チームワークの大切さなどを子どもたちに伝えました。また、参加者全員に人権啓発タオルやクリアホルダーなどを配布しました。

参加してくれた子どもたちからは、「楽しかった」「みんなで協力し、声をかけあう大切さがわかった」「また参加したい」などの声があり、たくさんの児童に好感をもっていただくことができました。



（企画啓発課 林）



Information お知らせ



人権パネルの紹介

高知県人権施策基本方針に今年度新たに加えられた3つの人権課題のうち、「犯罪被害者等」と「災害と人権」の2つの人権課題について、パネルを作成しました。

新たに加わったパネルも併せ、当センターで保有しているパネルをご紹介します。

無料で貸し出し（貸出期間：1カ月以内）を行っていますので、イベントなどでぜひご利用ください。

タイトル	テーマ	枚数
絵日記で考える外国人の人権問題	外国人	8
ハンセン病ってなあ〜に？	ハンセン病回復者	11
こどもみんなが主人公！！	子ども	10
あなたのところもバリアフリー	障がい者	10
どんな世界に生まれたい？	女性	11
生き生き元気 土佐の国	高齢者	11
いっしょに考えてみませんか	人権全般	11
気づきから一歩へ	人権全般	12
ケータイを安全に正しく使うために	携帯電話・インターネットによる人権侵害	15
犯罪被害者等の権利	犯罪被害者等	8
災害と人権	災害と人権	8
高知県人権施策基本方針	人権全般	8

現在、当センター5階
掲示板で「犯罪被害者
等の権利」のパネルを
掲示しています。



（企画啓発課 林）



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

■ 図書

1人5冊以内で、期間は2週間以内です。

■ ビデオ・DVD

1人2巻以内で、期間は2週間以内です。

※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

■ 収容人員

270名（机を使用する場合は180名）

■ 設備

放送設備、スクリーン、冷暖房

■ その他

使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : http://www.kochi-jinken.or.jp